

アンコール遺跡群 タニ窯跡群A6号窯の調査

経緯

研究所では平成5年度からアンコール文化遺産保護に関する研究協力事業を実施している。平成11年度からは第3フェイズとして、1995年に発見されたタニ窯跡群の調査と保存を行ってきた。これまでに平成11年度の8月と2月、平成12年度8月の計3回の発掘調査を行い、昨年度までに窯体の発掘調査はほぼ終了した。以下、平成12年度の調査成果を中心に、当該窯跡の概要を記す。

調査成果

遺構 窯跡はマウンド状の高まりとして存在し、対象としたA6号窯は東西約15m、南北約16.5m、比高約1.8mほどである。マウンドの西側中央に西側を焚口とする窯跡1基が発見された。

今回の発掘調査で窯跡の全貌がほぼ明らかになった。全長6.5m、最大幅2.8mほどと推定され、東側のマウンド頂部は削平されて窯体は存在しないが、床面は徐々に平坦となり、煙出しの存在が推定される。

焼成部は6m程度残存し、最もよく残る側壁の高さは50cmほどある。焼成部内で天井を支える支柱4基を確認したが、いま1基が上方に存在していたと考えられる。側壁には少なくとも3回の修復が見られ、床面にも上下2面が確認された。

燃焼部は最大の横幅が2.1m、主軸方向の長さが1.7mある。壁が最も高く残る部分で約1m。床面は焼成部のそれよりも約1.4m低く、大きな段差が特徴である。焚口には3孔あり、両側のもが大きく中央は小さい。また、中央の孔の下面は他よりも10cmほど高い位置にある。左右の大型孔が薪を投入する燃焼用で、中央の小型孔が空気の調節用と推定される。

灰釉陶器 半球形の身と蓋が組み合う丸型合子、扁平な蓋に筒型の身が組み合わさる筒型合子、小型盤口瓶の3器種がある。いずれも灰釉は薄く、淡黄色を示し、剥落した個体が多い。昨年概報で報告したクレン窯跡群出土の典型的なクレンタイプの灰釉と比べると、釉の厚さ・質ともに劣る。

無釉炆器 鉢、四耳壺、広口壺と今回新たに確認された注口土器がある。四耳壺は胴部の最大径が上にあり、肩の張る形態をなす。口縁直下から四耳のとりつく部分に

かけて、突帯と刺突文で飾る個体が多い。四耳は小さく形骸化し、紐を通す穴はあいていない。口縁部の形態に多くのバラエティーがある。広口壺は頸部から口縁部にかけて大きく外反し、口縁端部には幅の広い縁帯が付く。体部上半には7～8条の突帯で構成される文様帯がある。注口土器は、胴部を広口壺と基本的に同じ成形によって作り、注口部に外側から孔を開け、注口を取り付ける。頸部以上を欠失するが、広口壺のように外反する縁帯が付くものと思われる。暗灰色で須恵質に焼き上がる。瓦 瓦の多くは赤褐色を呈する土師質の焼き上がりを示す。丸瓦と平瓦いずれも裏面に突起を有する。平瓦では粘土紐を貼付した紐状突起で、丸瓦は紐状突起と粘土塊を貼付した円錐形突起の2種がある。粘土紐を用いて全体を成形し、表面を粗くナデて仕上げとする。大きさに厳密な規格性は見られない。

小結

遺構 今回までの調査で当該窯跡の概要が把握できた。既にタイ東北部で明らかになっているクメール陶器窯跡と比べると、多くの相違点が注目され、時代によってクメール陶器の窯跡に大きな変遷があることが明らかとなった。まず焼成部の床面傾斜がタニ窯跡群のほうが急である。タニ窯跡群とタイ東北部窯跡群とでは無釉炆器の有無が大きな違いである。床面傾斜の違いによる焼成温度の違いが、焼成器種の違いと関連する可能性が指摘できる。またタニ窯跡群では、窯体が幅2.8m・長さ8.5mで煙道に向かってやや幅を広くする平面形であるのに対し、タイ東北部窯跡群では、幅2m・長さ12mで幅の変化が少ない細長い平面形となる。さらにタイ東北部窯跡群では、一つのマウンドに窯壁を共有する7基前後の窯体が構築されるのに対し、タニ窯跡群では、一つのマウンドには原則1基の窯跡しかない。これら構造の違いは、焼成器種や生産規模の違いを反映していると考えられることができる。

遺物 灰釉の小型合子類、無釉炆器の壺・鉢・甕・水注、瓦などが焼成器種である。このうち、瓦と無釉の甕、壺の類が圧倒的な数を占め、灰釉の製品は極めて少ない。また出土地点の違いから、灰釉陶器と無釉炆器は焼成部の中央から前寄りに位置し、瓦は煙道部寄りに位置したことがわかる。

本窯跡の年代は、本窯の製品中に黒褐釉が含まれない

点から、黒褐釉の登場する11世紀初頭以降には降りえない。また9世紀と考えられているクレン窯跡群の製品より新しい様相を示す。以上から10世紀を中心とする年代が考えられ、10世紀の初めから中頃の可能性が大きいと考えている。今後平成13年度には、遺構覆屋を建設し、

発掘遺構そのものの展示を予定するとともに、周辺の窯跡群を含めた一体的な保存整備事業を計画している。

(杉山 洋)

参考文献 『アンコール文化遺産保護共同研究 タニ窯跡群発掘調査概報2』2001

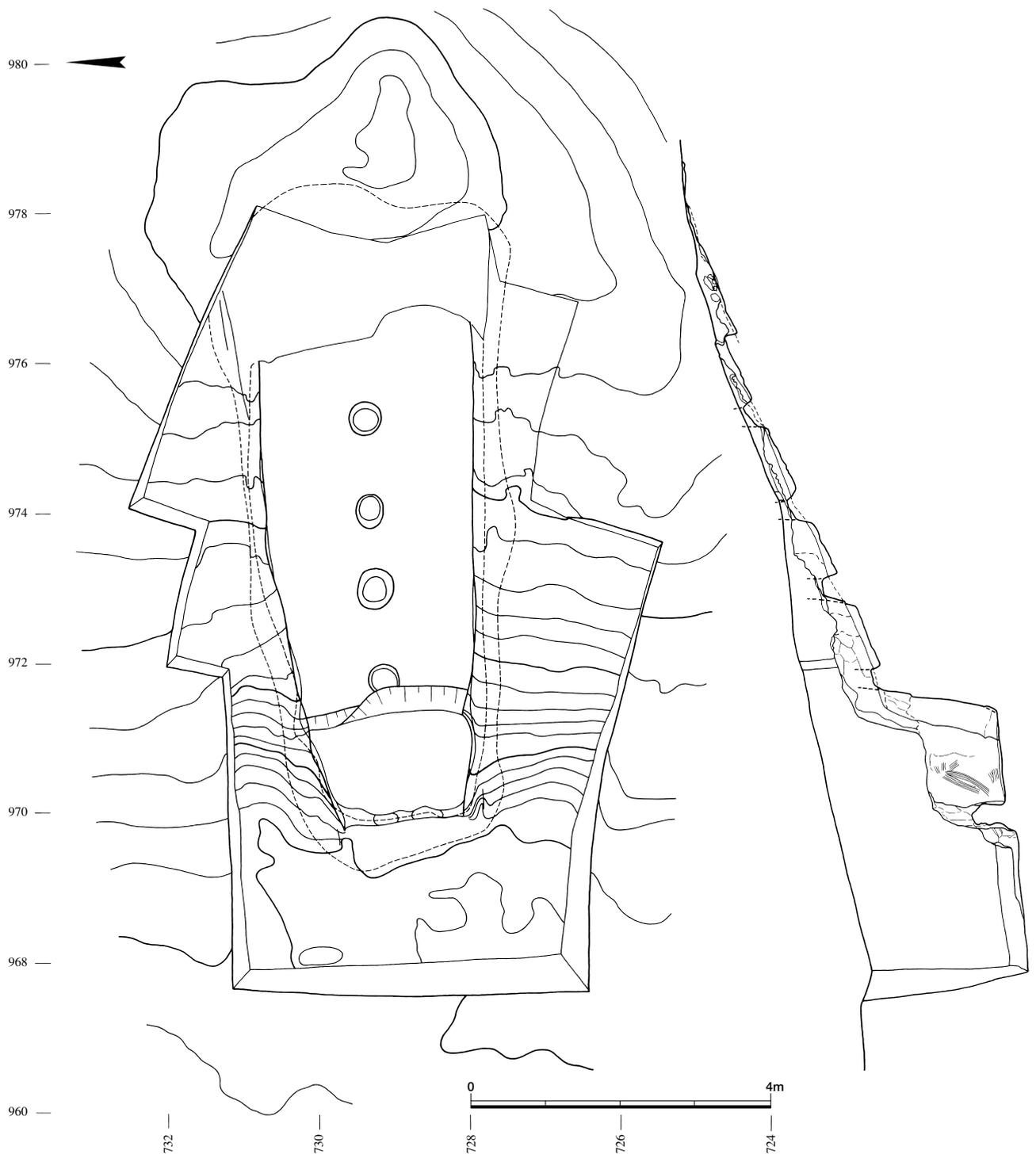


図7 タニ窯跡群A6号窯遺構図